

(3) 平成18年度第4部会の取組

平成18年度は、22（23の提案うち、歩専道の愛称設定は実施済み。以下22と示す。）の具体的な提案を踏まえた上で、完成したみなきたウォークなどの現地視察をおこなうとともに、提案の実現を推進するための地域まちづくり推進条例に基づく地域まちづくりグループによる組織づくりの検討等をおこなった。

<p>第1回検討会 平成18年6月26日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成18年度活動予定について ●22項目の実現に向けた取り組み
<p>第2回検討会 平成18年7月29日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中央地区現地視察（主にみなきたウォーク）※交通局経営計画課井上係長参加 ●意見交換
<p>第3回検討会 平成18年9月7日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雨水浸透枡勉強会 ※環境創造局環境政策課、管路保全課を招いて説明してもらった。 ●意見交換
<p>第4回検討会 平成18年10月10日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●みなきたウォークハマロードサポーターの立ち上げ報告 ●22の提案実現を推進するタウンセンター周辺地区の一体化に向けた組織づくりの検討
<p>第5回検討会 平成18年11月14日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●センター南・北駅間の地下鉄高架下の土地利用に対する意見交換 ●横浜市地域まちづくり推進条例に基づく「タウンセンター魅力アップ推進グループ」の申請について
<p>第6回検討会 平成18年12月18日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第4部会活動報告

④完成したみなきたウォークの現地視察

1) 現地視察および意見交換

22の具体的な提案が出たところで、完成したみなきたウォークや周辺の交通局用地の整備状況、パレードの可否等を調査するため、みなきたウォークの現地視察をおこなった。

現地視察後の意見交換の場で、みなきたウォークや吾妻山からの眺望の魅力を確認するとともに、既に土地利用を開始している地権者もいることから、早急な規制・誘導等の取り組みが必要であること等を確認した。

また、車優先で道路計画が考えられているため、みなきたウォークの道路横断部分の使い勝手が悪いという意見も出された。

さらに、みなきたウォーク周辺にゴミや路上生活者の姿などが目に止まったことから、みなきたウォークの日常管理組織を立ち上げる必要があることを確認した。



2) 意見交換を反映したみなきたウォーク管理組織の立ち上げ

現地視察後の意見交換を受けて、平成18年9月24日にセンター北商業振興会（皆川氏）とセンター南広場公園愛護会が協同して『(仮称)南北ウォークハマロードサポーター』を組織し、月1回（毎月第四日曜日の午前11:00より30分程度）のみなきたウォーク清掃活動を開始した。（現在の名称は「みなきたウォークハマロードサポーター」）

北と南 清掃で架け橋

みなきたウォークを「キレイに」有志集う

▶センター北とセンター南の協力は意欲深い」と話す皆川健一さん

「センター北とセンター南が一緒に（何かを）やる」と話すのはセンター北商業振興会長の皆川健一さん。「南北ウォークハマロードサポーター」発起人の一人にも名を連ねた。

南北ニュータウンの象徴ともいえる大商業地域の北と南だが、未開発だった中央地区が「壁」となり、これまでイベント開催なども別々がほとんど。だがここ

「センター北とセンター南が一緒に（何かを）やる」と話すのはセンター北商業振興会長の皆川健一さん。「南北ウォークハマロードサポーター」発起人の一人にも名を連ねた。

南北ニュータウンの象徴ともいえる大商業地域の北と南だが、未開発だった中央地区が「壁」となり、これまでイベント開催なども別々がほとんど。だがここ

「センター北とセンター南が一緒に（何かを）やる」と話すのはセンター北商業振興会長の皆川健一さん。「南北ウォークハマロードサポーター」発起人の一人にも名を連ねた。

南北ニュータウンの象徴ともいえる大商業地域の北と南だが、未開発だった中央地区が「壁」となり、これまでイベント開催なども別々がほとんど。だがここ

「センター北とセンター南が一緒に（何かを）やる」と話すのはセンター北商業振興会長の皆川健一さん。「南北ウォークハマロードサポーター」発起人の一人にも名を連ねた。

南北ニュータウンの象徴ともいえる大商業地域の北と南だが、未開発だった中央地区が「壁」となり、これまでイベント開催なども別々がほとんど。だがここ

「センター北とセンター南が一緒に（何かを）やる」と話すのはセンター北商業振興会長の皆川健一さん。「南北ウォークハマロードサポーター」発起人の一人にも名を連ねた。

南北ニュータウンの象徴ともいえる大商業地域の北と南だが、未開発だった中央地区が「壁」となり、これまでイベント開催なども別々がほとんど。だがここ

「センター北とセンター南が一緒に（何かを）やる」と話すのはセンター北商業振興会長の皆川健一さん。「南北ウォークハマロードサポーター」発起人の一人にも名を連ねた。

南北ニュータウンの象徴ともいえる大商業地域の北と南だが、未開発だった中央地区が「壁」となり、これまでイベント開催なども別々がほとんど。だがここ

タウンニュース都筑区版（平成18年9月28日号）

⑤提案の実現に向けた組織づくりの検討

これまでに検討してきた22の提案項目の実現をめざし、「みなきたウォークハマロードサポーター」に続く形で、市民によって提案を推進する組織づくりの検討をおこなった。

横浜市では、中期計画（平成18～22年度）の重要取組事項として、「協働による取組の展開」「市民活動支援の充実」を挙げており、市民が地域の事を考え、話し合いによる合意を形成し、行動することで課題を解決し、そして地域を創造していくような『協働による地域運営を土台とする市民満足度の高い都市経営』をめざし、「地域まちづくり推進条例」や「ヨコハマ市民まち普請事業」などの支援事業を進めてきていることから、これらの支援を活用する形で進めることとした。

1) タウンセンター周辺地区の状況・背景

中央地区土地区画整理事業の竣工により、これまで南北センター地区で分けられていたタウンセンター周辺地区がみなきたウォークを通して“ひとつ”になった事で、タウンセンター周辺地区全体を一体として考える視点が必要となった。

また、100ha近いタウンセンター周辺地区を魅力ある街にするため、竣工間もない中央地区が成熟するまでの間はセンター北地区とセンター南地区とが協同して、イベント開催や街並み形成等で誘導していく必要がある。

2) タウンセンター周辺地区を一体化する組織づくり

第4部会の“人的財産”を活用し、後に組織されるであろう早渕川親水広場や吾妻山公園の愛護会などとも連携し、地に足をつけながら、引き続き提案事項の実現を進める。

◆組織のイメージ

